

毒のある棘皮動物

ウニやヒトデなどには毒をもっているものがあります。

ここでは磯でも見ることのできる、危険な種類を紹介します。

ウニや一部のヒトデは鋭くとがった目立つトゲを持っています。しかし、その多くは毒を持っているわけではないので、刺さっても重症になることはまずありません。

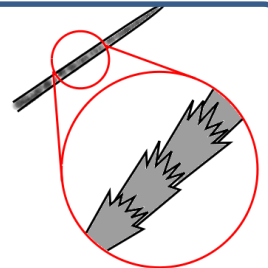
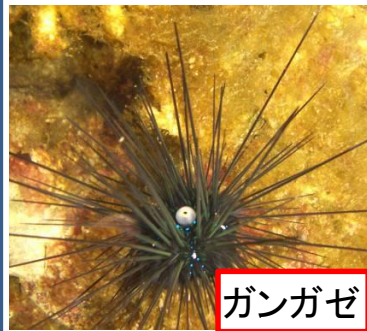
しかし、中には毒のあるトゲを持っている者がいるので注意が必要です。

ウニで特に注意しなければならないのは、ガンガゼとラッパウニです。

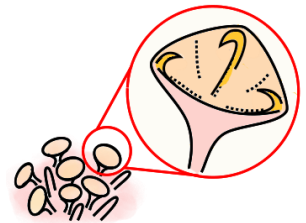
ガンガゼのトゲが刺さるとかなり痛みます。ガンガゼのトゲには毒があり、さらに折れやすいので、体の中にトゲが残りやすいからです。

ラッパウニはさきよく又棘が発達しており独特な姿をしています。又棘は、多くのウニでは小さく、物をつかむ場合などに使われます。しかし、ラッパウニの場合、又棘の先端にあるカギヅメから毒を注入するので、激しく痛む場合があります。

ヒトデで注意しなければいけないのは、オニヒトデです。サンゴを食べるためよく駆除の対象になりますが、オニヒトデのトゲにも毒があるので、うかつに触ると危険です。トゲはかなり頑丈で、手袋をしていても貫通する場合があります。



ガンガゼの棘節になっているため折れやすく、刺さるとなかなかきれいに抜けない。



ラッパウニの又棘(さきよく)

多くのウニでは、又棘は物をつかむのに使う。しかしラッパウニの場合、先端にあるカギヅメから毒を注入することができる。

